



指導案

本当に分かっているの？ ～質問する～

1 学習のねらい

質問するための言葉を知り、その言葉をどこでどのように使えばよいのか理解する。
質問することは恥ずかしいことではなく、質問を考えることの大切さに気づく。

2 番組活用にあたって

子どもたちに「分からないことがあったらどうしますか」と尋ねると、「誰かに教えてもらう」と答えます。しかし、いざ大勢の前となると分からないのに分かったふりをしてしまうというのは、よくあることです。

番組では、いわゆる5W1Hを「6はてなの法則」として質問の言葉を整理してみせています。自分の質問したいことが、「いつ?」「どこで?」「だれが?」「なにを?」「どうやって?」「どうして?」のどの部分にあたるのか意識させることも言葉を自覚的に使わせるためには大切な作業です。

質問によって「分からないことを知る」ことができますが、それだけでなく「あいまいなことをはっきりさせる」「話題を広げる」ということも期待できます。質問を意識させた対話交流をたくさんさせて、いろいろな質問を考えられる力を育てていきましょう。

3 指導の流れ

① 質問はよくしますか。質問するとき、どんな気持ちになりますか。

- ・質問をよくする。→いつも聞いているから、別に何とも思っていない。
- ・あまり質問しない→いつ言っているのか分からない。

自分だけ分からないのが恥ずかしい。みんなに注目されるから嫌だ。



② 質問は、生活の中でどんな役割を果たしているのかな。番組を見てみよう。

1. 番組を視聴する。
2. 「6はてなの法則」の言葉を黒板に書いて整理する。
3. 本を1冊見せて、どんな質問ができるか、考えさせる。

例：①本の題名はなんですか。②本を書いた人は誰ですか。③その本をいつ買いましたか。
④本のおもしろいところはどこですか など「6はてなの法則」に沿って考えさせる。



③ 「質問トーク!」をしよう。(小さい頃の写真を1枚ずつ用意しておく)

【「質問トーク!」のやり方】

- ①二人一組になり、話し手と聞き手になる。
- ②話し手は写真を見せて、「これは私の小さい頃の写真です」と言う。それ以外は言わない。
- ③聞き手は、写真を見ながら、話し手に質問をして写真の話聞き出す。
この時に「6はてなの法則」を使うように心がける。
- ④話し終わったら、話し手と聞き手が交代する。(何回か繰り返すと質問の仕方に慣れてくる。)
※写真が用意できない場合は、「筆箱」など身近にあるものでも話題になる



④ 質問したり、されたりした感想を話そう。

- ・質問されると「自分に興味をもってもらってるんだな」とうれしくなる。
- ・質問を考えるのは難しそうだったけど、話しているうちに普通にできるようになった。
- ・質問したり、されたりしているうちに相手のことがよく分かったような気がする。